



主な研究テーマ

□英語多読・多聴を用いた効果的な英語学習に関する研究

平成25年度の研究内容とその成果

平成25年度の研究では、国重が平成25年9月まで所属していた研究機関（徳山工業高等専門学校）の新生及び2年生の英語のproficiencyや語感を養成するのに最適な多読・多聴の方法、すなわち、どのレベルの本（1冊当たり平均英語が何単語含まれている本）を大量に読むのが最適であるかを数値的に明らかにすることを目的とした。

まず、新生に関しては、徳山工業高等専門学校の入学生（平成24年度入学）の英語力を測る新生テストの結果とこの入学生が1年生の間に多読・多聴で読んだり、聴いたりした本の1冊に含まれる平均語数（彼らの多読・多聴記録用紙から算出）の関係、及び、英語のproficiencyや語感がどれだけ身についたか等を数値的に測る英語の検定試験ACE（Assessment of Communicative English）テストの結果と1年時の多読・多聴で読んだり、聴いたりした本の1冊に含まれる平均語数の関係を、データに基づき数値的に明らかにするという方法で分析した。

次に、2年生（平成23年度入学）については、彼らが2年次に受験したACEテストの結果と1年次に受験したACEテストの結果と彼らが2年生の間に多読・多聴で読んだり、聴いたりした本の1冊に含まれる平均語数（彼らの多読・多聴記録用紙から算出）の関係、及び、彼らが2年次に受験したACEテストの結果が1年次に受験したACEテストの結果よりも30ポイント以上伸びた学生の数と彼らが2年生の間に多読・多聴で読んだり、聴いたりした本の1冊に含まれる平均語数の関係を、データに基づき明らかにするという方法で分析した。

以上の分析結果から、①実用英語検定のレベルでおおよそ4級～3級に当てはまる（新生テスト結果等から算出）徳山工業高等専門学校新生入生について、最も英語のproficiencyを効率よく伸ばすには、平均して900語／冊の本を大量（10万語以上が望ましい）に多読・多聴することが望ましい、②実用英語検定のレベルでおおよそ3級～準2級に当てはまる（1年次のACEテスト等から算出）2年生については、平均し

て1000語／冊の本を大量（15万語以上が望ましい）に多読・多聴することが望ましいという新しい知見が得られた。

### これからの研究の展望

どのようなレベルの学習者が、どのぐらいの語数を含む多読図書を読んだり聴いたりすれば効果が最大限に上がるのかについては、ある程度の知見が得られたが、語数の違いだけでなく、ネイティブスピーカーの子供用に書かれた本と、ノンネイティブスピーカーの学習者用に書かれた本との区別による効果の差や、読み方の違い（同じものを繰り返して読むのと、異なるものを読むことなど）による効果の差については、まだ検証が終わっていない。

そこで、今後は、学習者にとって最も効果的な多読・多聴学習法はいかなるものなのかという点についてさらに新たな知見を得るために、以上の点について、調査研究を進めていくつもりである。